



在福岡タイ王国総領事館ニュースレター

タイの鼓動

JUL 2026
VOL6

IN FOCUS

タイと世界の新たなエネルギー課題

石油危機から クリーンエネルギー時代へ



画像生成: ChatGPT

目次

タイの最新動向.....P2

在福岡タイ王国
総領事館の活動報告.....P4

タイ関連イベント情報.....P8

In FocusP10

タイの暮らしと文化.....P12



編集長からのごあいさつ

読者の皆さま、「タイの鼓動」夏号へようこそ！

2026年が始まったばかりのように感じられますが、早くも1年の半分以上が過ぎました。タイでは、2025年10月から2026年9月までの財政年度の最終四半期に入りました。

この3ヶ月間、タイと日本の双方の経済・社会に影響を及ぼす重要な出来事が数多くありました。タイ国内での出来事に加え、国際情勢に関わる動きも見られました。タイ国内では、6月11日、国王陛下の長女であられる、パチャラキティヤパー王女殿下が、47歳の若さで薨去され、タイ国民は再び深い悲しみに包まれました。また、2月の総選挙を経て、4月にはアヌティン首相率いる政府が国会で所信表明演説を行い、新政権による行政運営が正式に開始されました。本号では、同演説の要点やタイにおける重要な動向をご紹介します。タイ側との事業計画を検討される際にご参考となれば幸いです。

国際情勢については、6月16日、米国とイランが紛争終結に向けたMOUに合意したとの朗報がありました。今後、ホルムズ海峡をめぐる情勢や、石油・石油化学製品の価格が、100日以上に及んだ今回の紛争以前の状態に戻るのか、またどのように回復していくのか、引き続き注視する必要があります。少なくとも、この情勢は、各国に対し、特定の供給源にエネルギーを依存するリスクを分散する必要性を改めて示すものとなりました。そこで本号では、タイのエネルギー事情についてもご紹介します。

これまでの四半期と同様、総領事館は、管轄地域である、九州・沖縄および中国地方において、日本側のさまざまな関係機関との連携強化に引き続き取り組んでおります。政治面では、新たに着任された日本の各機関の幹部の皆様をお迎えしました。経済面では、タイでの事業展開を希望する日本企業、例えば即席麺「うまかっちゃん」を製造するハウス食品、コインランドリー事業を展開するWASHハウス、建物内のシロアリ・カビ対策システム事業を手がけるサニックス株式会社などと意見交換を行いました。また文化面では、チームタイランドとして博多どんたく港まつりのパレードに参加したほか、天神中央公園で開催された「Amazing Thailand Fest 2026」に参加しました。詳細につきましては、本号をご覧ください。

今後も総領事館は、両国の関係を一層緊密なものとするため、あらゆる分野において、各関係機関との協力促進を重視してまいります。当総領事館と連携した事業・活動の実施を希望される方は、thaiconsulate.fuk@mfa.go.thまでお気軽にご連絡ください。

在福岡タイ王国総領事館

〒810-0001 福岡市中央区天神4-1-37 第1明星ビル2階



fukuoka.thaiembassy.org



RTCGFukuoka



@ThailandFukuoka



092-739-9088



thaifest.fukuoka



タイの最新動向

パチャラキティヤパー王女殿下、薨去



画像出典: Reuters-Athit Perawongmetha



2026年6月11日、ワチラロンコン国王陛下の長女であられるパチャラキティヤパー王女殿下が47歳で薨去されました。王女殿下は、タマサート大学法学部をご卒業後、米国コーネル大学ロースクールにて法学修士号および法学博士号を取得されました。タイにご帰国後は、タイ外務省で勤務された後、タイ最高検察庁で検察官として勤務され、女性受刑者や妊娠中の受刑者などの処遇改善に尽力され、特に2010年の「国連女性被拘禁者の処遇及び女性犯罪者の非拘禁措置に関する規則」（通称「バンコク・ルール」）の採択において重要な役割を果たされました。2013年には東京で開催された国連アジア極東犯罪防止研修所（UNAFEI）の国際高官セミナーに出席され、「バンコク・ルールの実践―国際協力の枠組み」と題する特別講演を行われるなど、日本との友好親善の促進にも重要な役割を果たされました。

また、国連犯罪防止刑事司法委員会（CCPCJ）の議長を務められたほか、タイ王国駐オーストリア大使及び在ウィーン国際機関政府代表としてもご活躍され、国際社会における法の支配の推進や人権保護に大きく貢献されました。

王女殿下は、法学に深い見識を有する王女として、刑事司法、法の支配及び女性の権利保護の分野において数々の功績を残され、タイ国民から深い敬愛を集めてこられました。

なお、在福岡タイ王国総領事館では、2026年6月15日から26日まで弔問記帳所が設けられ、多くの方々にご記帳いただきました。この場をお借りして、心より御礼申し上げます。

新内閣 政策方針



アヌティン・チャーンウィーラクーン
首相

2026年4月9日、アヌティン首相は国会で所信表明演説を行い、タイ経済をあらゆる面から取り巻く不確実な状況について言及しました。演説では中東情勢の緊迫化に伴う燃料価格の高騰やエネルギー調達への影響など、タイ経済を取り巻く不確実性にも言及し、国民生活や経済活動への影響を最小限に抑えるための対応を進める考えを示すとともに、世界情勢が不安定さを増す中、国家の結束を強化し、財政規律を維持しつつ持続的な経済成長と国民生活の安定を実現する重要性を強調しました。

こうした認識のもと、新政権の基本方針として、5つの政策分野（経済、外交・安全保障、社会、災害対応・環境、行政運営・法制度改革）と、5つの重点戦略クラスター（マクロ経済・投資・未来産業、生産・貿易・サービス、インフラ・資源・環境、社会・福祉、外交・安全保障）から成る「10プラス政策」を発表しました。経済分野では、中小企業支援やデジタル経済の活用、重点産業への投資促進を通じて競争力強化を図るとともに、農業の高度化、観光の高付加価値化、輸出市場の多角化も推進します。社会分野では教育・医療制度の充実や高齢化対策に取り組むほか、行政サービスのデジタル化による効率化や法制度改革を進めます。また、外交・安全保障分野では、経済外交の強化や国境管理の改善、違法薬物・犯罪対策に注力し、環境分野では2050年までの温室効果ガス排出実質ゼロの実現に向けて、再生可能エネルギーの普及やカーボンクレジット市場の整備を推進する方針です。首相は「内から強い国を築き、国民が自立し、経済が競争力を持ち、世界から信頼されるタイを実現する」と述べ、新たな政策の着実な実行に向けた決意を表明しました。

タイ、2028年までにOECD加盟へ



2026年5月19日の閣議で、OECDの加盟に向け、すべての機関の取り組みの方向性を統括し、加速させ、進捗を一体して管理するため、首相を委員長とする委員会の設置を承認しました。当初の計画よりも2年前倒しし、2028年までの加盟を目指します。OECDへの加盟は、タイを多方面で高度化、改革し、国際基準に達するための政府の重要課題の一つです。これにより、投資家の信頼向上につながるとともに、世界を舞台に役割を果たすための準備を整えることになります。OECDの理事会は、2024年にすでにタイのOECDへの加盟手続きを開始しており、ロードマップを承認しています。



タイの最新動向

タイ、IMD世界競争力ランキングで順位上昇 制度改革と経済基盤を評価



スイスの国際経営開発研究所（IMD）が発表した2026年版「世界競争力ランキング」で、タイは前年から順位を4位上げ、70の国・地域中26位となりました。ランキングは経済実績、政府効率性、企業効率性、インフラの4分野を基に評価されるもので、タイは経済基盤の強さや政策・行政面の改善が高く評価されました。今回の順位上昇の背景には、デジタル経済の推進、投資環境の改善、産業高度化に向けた取り組みが着実に成果を上げていることがあるとみられています。一方で、労働者の技能向上、研究開発とイノベーションの促進、教育の質の向上、高齢化社会への対応などは引き続き課題となっています。タイ政府は今後も構造改革を進めるとともに、イノベーションの促進、生産性向上、人材育成に取り組む方針であり、これらは国際社会全体に共通する課題でもあります。

内閣、外国人事業法の規制対象リストから9業種を除外



2026年5月12日の閣議で、商務省が提案した外国人事業法（Foreign Business Act：FBA）の規制対象業種の見直し案が承認されました。これにより対象となる9業種については、外国企業が事業を行う際にこれまで必要とされていた外国人事業法に基づく外国事業許可の取得が不要となります。今回、規制対象から除外されるのは「①電気通信サービス②財務センターサービス③国内保証サービス④原資産・変数がデリバティブ契約法の

対象外となる先物契約のエージェント・ディーラー・コンサルタント・サービス⑤農産物先物取引事業⑥管理、人事、情報技術管理サービス⑦国内債務保証を提供するサービス⑧自動販売機、自動金融サービス機器その他自動機器の設置場所として、一部スペースを賃貸し、従業員の利便性を向上させるサービス⑨石油掘削サービス」です。今回の措置は、事業許可手続きの重複を解消し、外国企業による投資を一層促進することを目的としています。なお、外国人事業法上の許可は不要となる一方で、各業種を所管する規制当局からの許認可は引き続き必要となります。

法人設立登記を完全オンライン化

タイ商務省事業開発局（Department of Business Development: DBD）は、新規の法人設立登記について、2026年7月1日からオンラインシステム「DBD Biz Regist」を通じた申請に全面移行すると発表しました。これにより、



新規の法人設立登記に加え、新たなパートナーシップの登録についても、オンラインによる申請のみが認められることになります。今回の措置は、行政手続のデジタル化を推進し、利便性の向上や手続きの迅速化を図ることを目的としています。一方、既に登記されている法人の登録事項の変更や法人の清算決了登記については、引き続きオンラインと窓口の双方で申請が可能です。

タイ商務省、原油価格の高騰を受け、 パーム原油の輸出を規制



タイ商務省は2026年4月6日、中東情勢の緊迫化に伴う世界的な原油価格の高騰を受け、パーム原油の輸出に対する許可制度を導入することを発表しました。対象となるのは関税分類（HS）コードの1511.10.00に該当するパーム原油です。4月7日以降、商務省傘下のタイ物品・サービス価格中央委員会（CCP）の許可を受けない限り、同品目の輸出は認められません。許可を受けた事業者は、許可書に記載された品目、数量、期間及び仕向け地に従って輸出を行うとともに、各輸出貨物に当該許可書を添付することが義務付けられます。商務省国内商取引局長によると、原油価格の高騰を背景に、エネルギー分野ではバイオディーゼルの利用拡大が見込まれる中、パーム油はタイ国内で生産可能なバイオ燃料であることから、政府は需給を適切に管理することで、価格の安定化を図るとともに、アブラヤシの農家の収入確保につなげる考えです。

午前11時より終日 アルコール飲料の購入が可能に （安全を考慮し、8つの場所を除く）



2026年5月30日より、アルコール飲料管理委員会は、午前11時から午前0時まで、アルコール飲料の販売を許可すると発表しました。これまで、午後2時から午後5時までの間の販売が禁止されていましたが、2025年12月1日から180日間、同時間での販売を試験的に行っていました。ただし、上記の許可は8つの場所を除外しており、同委員会は2026年5月12日に、アルコール飲料の販売・飲酒を禁止する制限について告示しました。（安全性と適切性の理由により）
①道路上、車内あるいは道路上の車内、②鉄道駅・BTSを含む線路上の列車内、③公共船着場・定期旅客船、④バスターミナル、⑤工場区域、⑥政府機関・国営企業・其他国家機関が管理する区域、⑦国営企業・国家機関が管理する公園、⑧国営企業・その他 国家機関。なお、禁止規定や例外規定は場所・区域によって異なります。これらの禁止区域でアルコール飲料を販売・飲酒した場合、罰則の対象となる可能性があります。

在福岡タイ王国総領事館の活動報告

地方議会・行政機関との相互交流



在福岡タイ王国総領事、九州の各機関幹部と会談

ゴーソン総領事は九州地域の地方自治体の幹部と懇談を行いました。これまでの交流事業の成果を評価するとともに、リサイクル産業やクリーンエネルギー、公共交通分野における協力促進について協議しました。また、2027年の「日タイ修好140周年」に向けた記念事業の準備を進めるほか、在福岡ベトナム総領事とも面会し、九州との民間レベルでの交流強化について意見交換を行いました。



2026年4月23日、遠坂佳将
北九州市政策局長の
着任を歓迎



2026年4月23日、松本孝之
九州経済産業局国際部長の
着任を歓迎



2026年5月15日、大井裕
福岡県国際局国際交流課長の
着任を歓迎



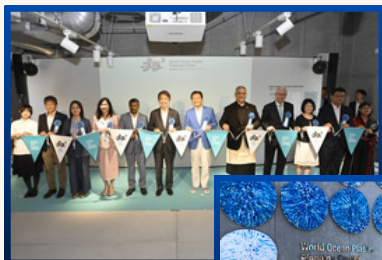
2026年4月23日、チン・ティ・
マイ・フォン在福岡ベトナム
総領事の着任を歓迎

上毛町教育委員会、総領事を表敬訪問

2026年4月23日、福岡県上毛町の道免隆教育長はゴーソン総領事を表敬訪問し、今年で10周年を迎える上毛町とチュラロンコーン大学附属小学校の青少年交流事業「バンコク友好の翼」に関する成果を報告しました。総領事は、同事業が継続的に実施されていることを高く評価するとともに、教育ネットワークを各地域へ拡大していくことを支持し、また来年、「日タイ修好140周年」を迎えるにあたり、青少年を通じた市民レベルでの外交を推進するための方策について意見交換を行いました。



佐賀県「世界海洋プラスチックプランニングセンター（PLAPLA）」オープニングセレモニー



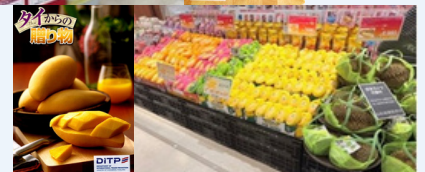
2026年6月7日、カノックワン副総領事は総領事の代理として、佐賀県唐津市の波戸岬で開催された、海洋プラスチックごみ問題の解決に向けた学習施設兼体験型ラボである「世界海洋プラスチックプランニングセンター（PLAPLA）」のオープニングセレモニーに出席しました。佐賀県知事をはじめ、環境大臣、大使、総領事、各国の外交団ならびに、各界からの来賓が参加しました。また式典後、副総領事は佐賀県と各国の代表者らと、同問題の解決に向けた意識啓発および国際協力の強化に向けて意見交換を行いました。

経済分野の交流・先進事例の共有



イオンスーパー70店舗で「タイ産果物試食販売」を実施 タイ産プレミアム果物の魅力をPR

2026年5月3日、タイ国政府貿易振興局の主催により、イオンスーパー70店舗にて「タイ産果物試食販売」が実施されました。各店頭では、甘さが特徴の「ナムドクマイ種」、香り高い「マハチャノック種」、独特な食感の「キオサウェイ種」のマンゴー3種に加え、「果物の王様」ドリアンが販売されました。試食を通じて来店者にタイ産プレミアム果物のおいしさを直接体験していただき、その魅力を大いにPRする機会となりました。



在福岡タイ王国総領事館の活動報告

経済分野の交流・先進事例の共有



総領事館、タイでの事業展開に向け日本企業に助言

2026年4月から6月にかけて、ゴーソン総領事は、当館管轄地域内の日本企業とタイでの事業展開に関して面談を行い、助言しました。今回面談したのは、即席麺「うまかつちゃん」を製造するハウス食品、コインランドリーを運営するWASHハウス、害虫駆除をはじめ、建物・住居環境の維持・管理に関するサービスを提供するサニックス社です。



総領事館、シリラート病院と連携し、「福岡100」をタイで応用



2026年6月24日、ゴーソン総領事はマヒドン大学シリラート病院のアピチャート・アッサワモンコン医学部長一行を総領事館に迎えました。同一行は、高齢者および認知症患者にやさしい都市づくり「福岡100」（人生100年時代の到来を見据え、健康で長寿な社会の実現に向けた100のアクション）に関する福岡市との

協力をさらに発展させるため、同市を訪問しました。総領事は、本年3月、タイ北部のピット県に対し、その知見と理念の共有を行っており、高齢化社会への対応に向けた取り組みの一環として、タイにおけるモデルケースとなる「ピット100」の実施につながりました。また双方は、高齢者にやさしいまちづくりモデルを他県にも拡大していく計画について協議しました。

社会・文化・教育分野の交流



総領事、バンコク都・福岡県高校生による社会課題解決案の発表会を聴講



2026年3月24日、ゴーソン総領事は、アクロス福岡において、バンコク都および福岡県の高校生による持続可能な地域社会の発展に向けた社会課題解決に関する提案発表を聴講しました。本事業は、2026年技術・文化交流事業の一環として実施され、両地域の高校生30名が参加し、観光、高齢者雇用、社会的弱者支援などに関する提案を英語で行いました。総領事は、協働の成果を高く評価するとともに、生徒たちが今後の学習や技能向上に活かせるよう、講評および助言を行いました。

第4回「別府ソクランフェスティバル2026」

2026年4月4日・5日、ゴーソン総領事は大分県にて開催された第4回「別府ソクランフェスティバル2026」に出席しました。総領事は開会式で挨拶を述べたほか、長野恭紘別府市長らとともにタイの伝統行事であるソクラン（水かけ祭り）に関するトークショーに登壇しました。会場では、タイ料理や物販・サービス、タイ人と日本人のアマチュアアーティストによるステージパフォーマンスも行われました。また総領事館は、会場内に仏像を安置し、来場者が吉祥を願い、「ソクナム・プラ（仏像に清めの水を注ぐ伝統儀式）」を体験できるコーナーを設け、来場者から高い関心を集めました。



在福岡タイ王国総領事館の活動報告

社会・文化・教育分野の交流



総領事、タイ人水彩画家の作品を鑑賞



2026年4月17日、ゴーソン総領事は、福岡市美術館にて開催された「第32回アジア美術家連盟日本委員会展」を訪問し、タイ人水彩画家のPANITA AOKI (青木パニター)氏の作品を鑑賞しました。同展は、アジア各地の著名なアーティストの作品が一堂に会する国際的な展覧会です。芸術を通じたインスピレーションの交換を促進するとともに、タイ人アーティストと各国のアーティストとの良好関係を深める貴重な機会となりました。

タイの食・文化の魅力発信イベント

2026年4月25日、カノックワン副総領事は、IWATAYA文喫 福岡天神にて開催された「タイ料理再発見～タイの食文化にふれる、ローフード×焼酎コラボ講座～」に講師として登壇し、暑さを和らげる宮廷料理「カオチャー」を紹介し、タイの暮らしや日タイの文化的つながりについても説明しました。また、焼酎プロデューサーの黒瀬暢子氏によるタイ米を使用した鹿児島産焼酎の紹介や、栄養士で調理師の宮村ゆかり氏による、パッタイとガパオライスのローフードのアレンジも披露されました。健康志向の料理と融合した新たな観点で、タイ料理の魅力を紹介し、参加者を魅了しました。



タイ王国パレード隊、博多どんたく港まつりに参加



2026年5月3日・4日、タイ国政府観光庁（TAT）福岡事務所は、サリナ所長の主導のもと「タイ王国」パレード隊を編成し、2026年第65回博多どんたく港まつりに参加しました。同パレードには、ゴーソン総領事夫妻をはじめ、総領事館および、TAT福岡事務所の職員とその家族、ならびにタイにゆかりのある日本人など、総勢100名を超える参加者が加わりました。参加者は、タイの伝統衣装やタイ布を用いた装いに加え、象柄パンツや象柄の帽子を身に着け、さらに「アメージング・タイランドフェス2026」をPRするTシャツを着用して行進しました。晴天に恵まれた2日目には、タイ人舞踏団や福岡市内のムエタイジムに所属する選手や青少年たちが、タイ伝統舞踊の披露やムエタイの実演を行い、沿道の観客に華やかさと感動を届けました。



在福岡タイ王国総領事館の活動報告

社会・文化・教育分野の交流



「アメージング・タイランドフェス2026」にてタイのソフトパワーを発信



2026年5月30日、ゴーソン総領事は、タイ国政府観光庁（TAT）福岡事務所主催の主催により、天神中央公園で開催された「アメージング・タイランドフェス2026」の開会式に、来賓として参加しました。また、総領事館は、「チュットタイ（タイ衣装）」の展示ブースを設置し、2026年にユネスコ無形文化遺産へ登録申請していることについて紹介するとともに、展示を通じてタイのソフトパワーを発信しました。さらに、在福岡タイ王国総領事公邸料理人「シェフ・スー」ことベンジャワン・セーンティンによる、タイ料理の実演を2日間、ステージ上で行いました。タイ料理ならではの味わいと調味料の魅力を伝えるため、「鶏ひき肉のガパオ炒め」と「クン・パッポンカレー」を紹介しました。



総領事館、イオンの「フードドライブ」に寄贈

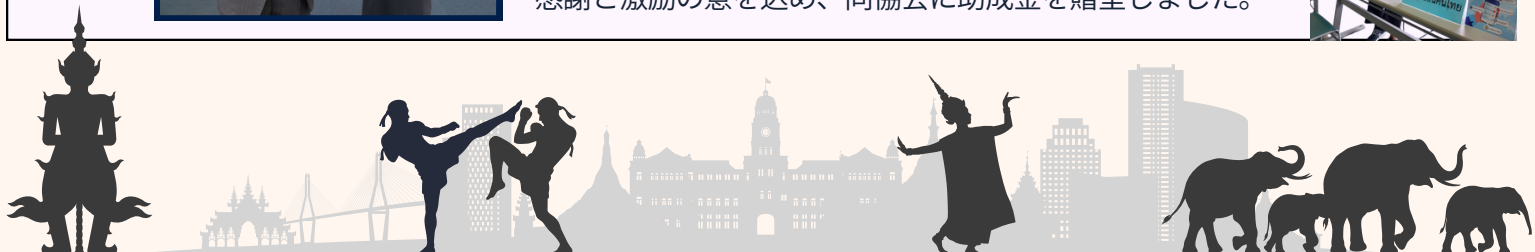


2026年6月11日、ゴーソン総領事および総領事館の職員は、イオン天神北店の「フードドライブ」活動に参加し、食品を寄贈しました。寄贈したタイの食品はイオンを通じて、慈善団体へ届けられます。この活動は、2026年6月3日のスティダー王妃陛下の御誕生日に際し、奉祝活動の一環として行われました。



総領事館、広島県で移動領事サービスを実施

2026年5月22日・23日、総領事館は広島県において、今年度最後となる移動領事サービスを実施しました。今回の移動領事サービスでは、パスポート申請の受付、書類認証、領事業務に関する相談やアドバイスをを行いました。今回の移動領事サービスの実施にあたり、広島タイ交流協会のご協力により、広島市留学生会館2階の会場を使用することができました。さらに、今回の広島県訪問に際し、カノックワン副総領事は2026年5月21日に開催された広島タイ交流協会の通常総会に総領事館を代表して出席しました。同協会が総領事館の領事業務を支援するとともに、タイに関する理解促進と認知向上に資する様々な活動を実施していることへの感謝と激励の意を込め、同協会に助成金を贈呈しました。



タイ関連イベント情報



【奨学生募集】 チュラポーン大学院大学 (CGI) 2027年度修士課程奨学金 プログラムのご案内



チュラポーン大学院大学 (Chulabhorn Graduate Institute: CGI) では、2027年度修士課程奨学金プログラムの奨学生を募集しています。対象分野は、応用生物科学 (環境保健学・環境毒性学) および化学です。本奨学金はフルスカラーシップで、授業料・学費に加え、2027年6月から実施される6週間の補習課程、往復航空券、宿泊費および月額生活費等が支給されます。



応募を希望される方は、募集要項をご確認の上、2026年8月31日までに下記ウェブサイトからオンラインでご応募ください。
<https://admission.cgi.ac.th/cgiandcps-scholarship>



Japan-ASEAN Startup Business Matching Fair 2026 ～日本とASEANのビジネスとイノベーションを繋ぐ架け橋～

開催日: 2026年7月2日 (木)

会場: サイアム・ケンピンスキーホテル (バンコク・タイ)

アユタヤ銀行 (MUFGグループ) 主催の、日本とASEANのスタートアップ企業とグローバル企業を繋ぐ、商談イベントが開催されます。過去には1日で400件以上のマッチングが成立するなど、投資家と直接繋がることのできる、質の高いビジネスチャンスです。今年は福岡県からも、県内のスタートアップ4社が参加し、ASEAN展開を目指します。次世代のイノベーションに触れ、革新的なパートナーシップを築く絶好の機会にぜひご注目ください。



「The Select 2026」Thailand Beauty & Lifestyle Fest ～注目すべきタイ製品が集うポップアップイベント～

開催期間: 2026年7月17日 (金) ～ 26日 (日)

11:00～18:00 (17日16:00 OPEN / 最終日17:00 CLOSE)

会場: 六本松 蔦屋書店 (福岡市中央区六本松4-2-1 六本松421ビル 2F)

主催: タイ国政府貿易振興局 / 後援: 在福岡タイ王国総領事館、タイ国政府観光庁 福岡事務所

六本松 蔦屋書店 (福岡市中央区) にて、タイの美容とライフスタイルをテーマにしたポップアップイベントが開催されます。本イベントは日本国内におけるタイ製品の販売促進プロジェクトの一環として行われ、タイ製品の輸入業者8社が出店します。会場には、タイのアパレル・雑貨を始め、コーヒー、ビール、クラフトビール、ワイン、ハーブティー、コスメ、オーガニック食品やドライフルーツなど、多彩なタイのライフスタイル関連商品が一堂に会します。タイの「美」と「暮らし」の魅力を、ぜひ会場でご体感ください。



TILOG-LOGISTIX 2026

～Empowering global trade with generative supply chains～

開催期間: 2026年8月19日 (水) ～ 21日 (金)

会場: バンコク国際貿易展示場 (BITEC) (バンコク・タイ)

公式サイト: <https://www.tilog-logistix.com/>

ASEAN最大級の物流・ロジスティクス展示会として知られる「TILOG-LOGISTIX 2026」は、物流サービスやイントラロジスティクス技術の最新動向が集結する場です。会場では、倉庫管理システム (WMS) やスマート輸送技術など、供給網の最適化を支える革新自動化ソリューションが紹介されます。業界の専門家が一堂に会し、グローバルなビジネスネットワークを構築する重要なプラットフォームとなっています。

タイ関連イベント情報



第74回バンコク・ジェムズ&ジュエリー・フェア ～ジュエリー産業の最新動向がわかる事業者向け総合展示会～

開催期間: 2026年9月8日 (火) ～12日 (土)

会場: クイーン・シリキット国際会議場(QSNCC) (バンコク・タイ)

公式サイト: <https://www.bkkgems.com/>

本イベントは、国内外のバイヤーが集う歴史ある展示会です。タイの強みであるカラーストーンをはじめ、ジュエリー完成品から原石、加工機械、パッケージに至るまで、宝飾品関連製品が一堂に集結します。業界動向の把握や直接商談の場として、ビジネス拡大の機会にぜひご活用ください。



タイフェスティバル大分2026

～微笑みの国の魅力を体感！大分でタイ文化を楽しもう～



開催期間: 2026年10月3日 (土) ・4日 (日)

会場: トヨタカローラ大分 祝祭の広場

主催: NPO法人大分県日タイ友好協会

公式サイト: <https://www.instagram.com/thaifestivaloita/>

タイの豊かな文化を体感できる「タイフェスティバル大分2026」が今年も開催されます。会場では、本場のタイ料理を楽しめる屋台が並ぶほか、優雅な伝統舞踊やムエタイパフォーマンスも披露されます。豪華な抽選会などの企画も予定されており、大分にいながらタイの活気と文化を存分に体感できる2日間となっています。



タイフェスティバル in SAGA シリーズ10

～佐賀とタイ、10年目の架け橋。心躍る文化の祝祭～



開催期間: 2026年10月17日 (土) ・18日 (日)

会場: こころざしのもり・佐賀城公園南濠 (佐賀市内)

主催: 佐賀県

公式サイト: https://www.instagram.com/thaifestival_saga/

佐賀県とタイの交流の場として地域に親しまれてきた本イベントは、今年で第10回という節目を迎えます。これまでの交流の歩みを振り返るとともに、両地域の友好関係をさらに深める貴重な機会となります。会場では、本場のタイ料理を楽しめるブースが多数出店するほか、多彩なコンテンツを通じてタイの伝統文化や芸術に触れることができ、佐賀にいながらタイの魅力を体感できる2日間となります。



DigiTech ASEAN Thailand 2026 ～東南アジアのビジネスとデジタル技術を結ぶIT総合展示会～

開催期間: 2026年11月25日 (水) ～27日 (金)

会場: インパクト・ムアントンターニー (IMPACT) ホール7-8 (バンコク・タイ)

公式サイト: <https://digitechasean.com/>

本イベントは、世界中のテクノロジー&デジタル市場と繋がる、東南アジア最大級の事業者向けIT展示会です。ビジネスソフトウェア、サイバーセキュリティ、AI、データ&クラウド、IoTなど、未来のビジネスを牽引する最新デジタルソリューションが集結します。ASEAN市場での技術革新やグローバルな事業展開を目指す企業にとって、情報交換とネットワーキングの機会を提供します。



タイと世界の新たなエネルギー課題： 石油危機からクリーンエネルギー時代へ



中東情勢の緊迫化やホルムズ海峡を巡る不安定な動きが続く中、世界のエネルギー安全保障への関心が再び高まっています。一方で、AIやデータセンターの急速な普及に伴う電力需要の増加は、エネルギー供給の在り方そのものに大きな変化をもたらしています。こうした中、タイでもエネルギー安全保障の確保と脱炭素化を両立させるための取り組みが加速しています。本稿では、タイが直面するエネルギー課題と、その解決に向けた取り組み、さらに日本との協力の可能性について皆様と一緒に考えてみたいと思います。

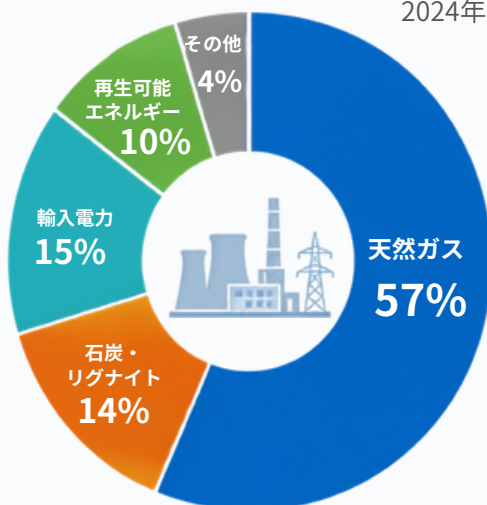
2024年 タイの総発電量

約235,000 GWh

日本の約1/4

電源構成

2024年



まず、タイのエネルギー構造から見てみましょう。タイの発電量は2024年に約23万5,000GWhとなり、日本の約4分の1の規模に達しています。発電源の中心は天然ガスで、総発電量の約57%を占めており、石炭・リグナイトが14%、輸入電力が15%、再生可能エネルギーが10%を占めています。不足分を補うためのLNG輸入が増加しています。その結果、タイのエネルギーコストは国際市場の動向に左右されやすい構造となっています。

また、石油についてもタイは中東への依存度が高く、2024年の原油輸入額の約6割を中東地域が占めています。このため、中東情勢の変化は燃料価格や電力コストを通じてタイ経済に直接影響を及ぼします。最近の原油価格上昇を受けて、タイ政府がパーム油輸出の管理強化に乗り出した背景にも、こうしたエネルギー安全保障への懸念があります。

こうした課題に対応するため、タイ政府はエネルギー安全保障と脱炭素化を同時に進めています。具体的には、2037年までに再生可能エネルギーの比率を約30%に高める一方、天然ガスへの依存度を約50%まで引き下げる方針を掲げています。地域レベルでも、コミュニティ・ソーラーファームや農業用太陽光発電、水上太陽光発電など、地域特性を生かした再生エネルギー事業が各地で進められています。



CRUDE OIL IMPORT

約60%

2024年の原油輸入額に占める中東地域の割合。中東情勢は、燃料価格や電力コストを通じて、タイ経済へ影響を及ぼしやすい。

タイと世界の新たなエネルギー課題 石油危機からクリーンエネルギー時代へ

さらにタイは、「国が決定する貢献（NDC）3.0」の達成に向けた取り組みを強化しています。2035年までに温室効果ガスの純排出量を47%削減する目標を掲げるとともに、従来2065年としていたネットゼロ達成目標を2050年に前倒ししています。脱炭素化は環境政策にとどまらず、投資誘致や産業競争力の強化にも直結する重要な国家戦略となっています。

こうした動きを支える制度として注目されるのが、タイ独自のカーボンクレジット制度であるT-VER、すなわちThailand Voluntary Emission Reduction Program（タイの自主的な温室効果ガス削減を認証する制度）です。再生可能エネルギーや省エネルギー、廃棄物管理、森林・農業、CCS（二酸化炭素回収・貯留）などによる温室効果ガス削減効果を認証し、カーボンクレジットとして活用する仕組みであり、日本の二国間クレジット制度（Joint Crediting Mechanism：JCM）との連携拡大も期待されています。

エネルギー分野におけるタイと日本の協力はすでに始まっています。九州電力によるタイ大手発電会社EGCOへの出資や、タイのSPCGによる鳥取県での太陽光発電事業への参画は、その代表例です。こうした協力は、資本提携にとどまらず、技術交流や共同実証事業へと発展する可能性を秘めています。

特に九州・中国・沖縄地域は、タイとの協力に大きな可能性を有しています。北九州市の洋上風力発電や水素プロジェクト、中国地方のカーボンリサイクル技術、沖縄の離島型エネルギーシステムなどは、タイが抱える課題と多くの共通点を持っています。地域の経験や技術を共有することで、双方にとって有益な協力関係を構築できるでしょう。

エネルギー安全保障と脱炭素化は、タイだけでなく世界共通の課題です。同時にそれは、クリーンエネルギー、省エネルギー、蓄電システム、脱炭素に関する技術と経験を有する日本の企業、地方自治体、教育機関にとって、新たな協力や事業展開の機会でもあります。

2027年には日タイ修好140周年という節目を迎えます。長年にわたり培われてきた両国の信頼関係を基盤として、エネルギー、脱炭素、そして未来産業の分野協力がさらに深化し、持続可能な社会の実現に向けた新たな成果へと結び付いていくことが期待されます。

● 脱炭素ロードマップ

- **2035**
温室効果ガス純排出量を47%削減
- **2050**
ネットゼロ達成目標を前倒し
- **T-VER**
再エネ、省エネ、廃棄物、森林・農業、CCS等の削減効果を認証

2027

日タイ修好140周年。
エネルギー、脱炭素、未来産業分野での協力を一層深化させる節目。

* * * タイの暮らしと文化

第6回 総領事の食卓から BY CHEF SUE

今号でご紹介するのは、5月31日に開催された「アメージング・タイランドフェス2026」（福岡で通算7回目となるタイフェス）のシェフ・スーによる調理実演にも登場した「クン・パツ・ポンカリー（กุ้งผัดพริกขี้หนู）＝エビのカレー粉炒め」です。タイ料理の人気メニュー「プー・パツ・ポンカリー（ปูผัดพริกขี้หนู）＝カニのカレー粉炒め」を、ご家庭でも手軽に楽しめるよう、プリプリのエビでアレンジした一品です。

この料理の魅力は、カレー粉とナムプリックパオが香るスパイシーな風味、そして卵とミルクが溶け合った「ふわふわ・とろとろ」の口あたりにあります。一口食べれば、濃厚な旨みとまろやかなコクが口いっぱいに広がり、キンサイ（タイセロリ）やネギなどの香味野菜が、味に深みと爽やかなアクセントを添えてくれます。

タイジャスミンライスの上に、エビととろとろのソースをたっぷりかけて召し上がれば、思わず次々と口に運びたくなるおいしさです。ぜひご家庭で、タイの味わいをお楽しみください。

クン・パツ・ポンカリー



シェフ・スーのレシピ

AMAZING THAILAND FEST 2026

エビのカレー粉炒め 「クン・パツ・ポンカリー」

材料（2人前）

- エビ 150g
- にんにく 1〜3片（お好みに量を調整可）
- 卵 1個
- 玉ねぎ 50g
- キンサイ（タイセロリ）15g
- ネギ 1〜2本（お好みに量を調整可）
- 赤唐辛子 1本
※なければ赤パプリカで代用可
- 無糖練乳 50ml
※なければ牛乳で代用可
- カレー粉 大さじ1（5g）
- 砂糖 小さじ1½
- タイの薄口しょうゆ（シーユーカオ） 小さじ2
- オイスターソース 小さじ2
- ナムプリックパオ（タイのチリペースト） 小さじ1
- こしょう 適量
- ナムプリックパオの油
（タイのチリペーストの油） 少々
- サラダ油 大さじ2



作り方

- まず、ソースを作る。ボウルに卵を割り入れ、無糖練乳、カレー粉、ナムプリックパオ、すべての調味料をすべて加え、卵がほぐれてなめらかになるまでよく混ぜ合わせる。
- フライパンに少量の油を入れて熱し、にんにくを香りが立つまで炒める。エビを加え、エビの色がオレンジ色に変わる程度までさっと炒める（炒めすぎるとエビが硬くなるため注意）。
- 玉ねぎを加えて、透き通るまで炒め、火を少し強める。1.の卵ソースを流し入れ、手早く混ぜながら、ソースが軽く固まり始めるまで炒め合わせる。
- ネギ、キンサイ（タイセロリ）、赤唐辛子を加え、全体をさっと混ぜ合わせる。ソースが乾きすぎないように長く炒めすぎず、火を止めて器に盛り付けたら完成。

ポイント



おいしく作るコツは、エビを炒めすぎずプリッとさせること、卵ソースを加えてからは手早く混ぜ、とろりとした口あたりを残すことです。

今回はエビを使用していますが、カニやイカ、シーフードミックスなどの魚介類はもちろん、お好みの肉類に替えてもおいしく仕上がります。

在福岡タイ王国総領事公邸の料理人「シェフ・スー」は、在外公館での経験と料理の腕を買われゴーソン総領事の福岡着任を機に2024年5月に来福しました。大学在学中からバンコクの5つ星ホテルでフルーツカービングの実演担当やバンコクの日本人向けカルチャースクールのタイ料理講師等を経て卒業後は世界各国のタイ王国大使館、総領事館の料理人として20年近く腕をふるってきました。



タイ文化の豆知識

世界を魅了するタイ料理には、ユネスコ無形文化遺産に登録された「トムヤムクン」をはじめ、ハーブ香るタイカレー、そして爽やかな味わいの「ソムタム」など、実に多彩な魅力があります。今回は、そんなタイ料理の背景にある「食文化の発展の軌跡」を、皆さまと一緒に紐解いていきたいと思います。

歴史を遡ると、古くは「スコータイ時代」の人々は、「ご飯」を主食とし、川や海で獲れる「魚」を中心とした、非常にシンプルで自然の恵みに満ちた食生活を送っていました。「水に魚あり、田に稲あり」という、タイの豊かな自然を称える有名な言葉の通り、自然の恵みを生かした美味しさこそが、タイ料理の原点です。

スコータイ時代



続く「アユタヤ時代」には、タイは海外との交易や外交を通じて、多様な文化と出会います。これにより、各地の食材や調理法がタイに取り入れられていきました。例えば、インドからは香り高い香辛料、中国からは麺類や炒め物の技術、ヨーロッパからは卵を使った菓子が伝わったとされています。さらに、多くのタイ料理に欠かせない「唐辛子」も、ポルトガル商人などを通じて南米からタイにもたらされたと考えられています。

アユタヤ時代



そして、バンコクを首都とする現在に続く「ラッタナコーシン時代」には、宮廷を中心にタイ料理がさらに洗練されていきました。味や香り、盛り付けの美しさにも細やかな工夫が凝らされ、タイ料理の芸術性が高められた時代であったと言えます。時代が進むにつれて、食に関する記録や料理書も増え、宮廷で培われた知識や技術は、教育や料理本などを通じて一般の人々にも広まっていきました。同時に、海外から伝わった食文化も、タイの暮らしや食材に合わせて取り入れられ、スプーンとフォークを用いる食事作法なども含め、タイならではの形で発展していきました。

ラッタナコーシン時代



こうした海外の食文化をタイらしく取り入れる流れは、現代のタイ料理にも見ることができます。例えば、今号のアレンジレシピでご紹介した「クン・パツ・ポンカリー」は、タイ・中国・インドの食文化が感じられる一品です。また、「パッタイ」には中国由来の麺料理や炒め物の文化が見られます。一方、「タイスキ」は、日本の「すき焼き」に由来する名前を持ちながら、中華系の鍋料理とタイ風のタレが融合した人気の鍋料理です。



現代のタイ料理

「タイ料理」に関するタイ語

① "อาหารไทย" (アーハーン・タイ)

意味：「タイ料理」
อาหาร (アーハーン)：料理／食べ物
ไทย (タイ)：タイ



② "ช้อนส้อม" (チョーン・ソーム)

意味：「スプーンとフォーク」
ช้อน (チョーン)：スプーン
ส้อม (ソーム)：フォーク



タイでは、食事の際にスプーンとフォークを使うことが一般的です。主にスプーンで食べ、フォークは料理をスプーンにのせるために使われます。

③ "ในน้ำมีปลา ในนามีข้าว" (ナイ・ナム・ミー・ブラー、 ナイ・ナー・ミー・カーオ)

意味：「水には魚があり、
田には稲がある」

タイが古くから豊かな自然に恵まれた国であることを表す言葉です。



④ "กลมกล่อม" (グロム・グローム)

意味：「ほどよく調和していること」
※味や音について用いられます。

